

教育民生常任委員会行政視察報告

日程 7月10日（火）午前8時出発～7月11日（水）午後7時帰着
視察先 広島県尾道市役所・浦崎認定こども園・・・認定こども園について
愛媛県西条市 四国鉄道文化館・・・鉄道文化財保存展示について
香川県坂出市 坂出市立病院・・・病院経営・病院建設について
参加者 別紙

1、 浦崎認定こども園について

【尾道市役所対応者】

尾道市議会：壇上正光議長、事務局 川原香織専門員
尾道市福祉保健部子育て支援課：有光貢課長、小玉高嘉児童保育係長
尾道市教育委員会：教育総務部庶務課 原吉洋課長、川鱒雄一課長補佐、
尾道市主幹（保育施設再編担当）村上宏昭主幹
浦崎認定こども園：畝本優子園長、立本年美主任保育士

【経過と現状】

尾道市立戸崎幼稚園が入園児数の減少に伴い、平成18年3月末で廃園となり、未就学児の受け入れ施設は市立浦崎保育所のみとなった。平成18年10月、関係法と広島県条例が施行され、平成19年4月1日、保育所に幼稚園機能を加えた保育所型の「浦崎認定こども園」としてスタート。県内第1号の公立認定こども園として開設された。

平成21年11月、新園舎を建設。定員は、長時間利用保育児0歳～5歳児60人。短時間利用保育児3歳以上30人。現在、在園児は、長時間利用児は55人、短時間利用児は19人の計74人。職員数は、保育士12人。調理員2人。

市内には、因島三庄町に三庄認定こども園が、平成21年4月に幼保連携型で開設されている。

こども園は、現在2園だが、今後、尾道市就学前教育・保育施設再編計画（平成23年12月）に基づき認定こども園を整備する方針。

保幼小中の15年教育を見据えての短期、長期の将来ビジョンが示されている。

検討委員会は、副市長、教育長、福祉保健部、教育総務部、学校教育部等の庁舎内で平成23年6月～12月の期間で検討されている。しかし、これ以前に、「就学前教育保育施設検討委員会」による検討が2年がかりで行われている。

PTAと保護者会の組織の在り方については、保育所型も幼保連携型も公

立保育所後援会に所属していて問題はない。

保育所型の利点は、給食が園で実施されていて、地元産を使用している。

保育料については、短時間利用児は、月額9,300円（給食費含む）

長時間利用児は、所得に応じて市が決定。

事前の質問にあわせ、多くの質議を行った。

その後、浦崎こども園の現場に行き時間をかけて園長等に施設、現場の状況を聞いた。今後の課題や検討内容について参考となった。



(市役所での研修)



(施設での説明)

2、 鉄道文化財の保存展示について（四国鉄道文化館）

【西条市役所対応者】

観光振興課：渡部英泰課長、尾崎俊四国鉄道文化館・十河信二記念館・西条市観光交流センター館長 ほか

【視察内容】

財団法人日本ナショナルトラストが全国9番目に作ったヘリテイジセンターで、四国初の本格的な木造建築の「鉄道博物館」であり、2009年オープン。石鎚山の登山口である伊予西条駅に隣接している。

第4代国鉄総裁の十河信二氏が旧制西条中学校出身で、第2代旧西条市長を務められていたこともあり、国鉄総裁時、東海道新幹線計画を実現した功績を讃え文化館を設置し、「0系新幹線電車」と四国で活躍をした「DF50形ディーゼル機関車」や貴重な鉄道資料の展示がされていた。

今後、公園に常設展示されているC57型蒸気機関車「春雷号」を駅舎の向かいに南館を建設し移設の計画がされている。

用地費1億5千万円。建物1億5千万円。南館に向けての陸橋は3億円で工事が完了していた。総工費6億円と大変スケールの大きいものであった。

現在、C57型蒸気機関車は公園地内に展示されていたが、屋根付きで子どもたちが身近に触れられるものとなっていた。

今後の検討に参考となった。



(鉄道博物館内)



(場外展示の SL)

3、 病院経営・病院建設について（坂出市立病院）

【坂出市役所対応者】

坂出市議会事務局：中西佐知子係長

坂出市立病院：砂川正彦院長、宮竹光浩事務局長、木村泰規庶務課長

【視察内容】

まず、NHKで放送された前塩谷院長の赴任で病院運営が大きく変わったという「かわらなきや」のDVDを視聴した。

坂出市立病院の経過

坂出市立病院は、1947年に開設。病床数216床・8診療科・3病棟。

へき地医療中核病院・病院群輪番制病院・救急病院・広域救護病院など指定。医師22名。常勤看護師86名をはじめとした合計222名の職員。

1979年から12年連続の赤字で、累積不良債務額が約25億円で不良債務比率が100%を超え、全国自治体病院の中でワースト1位となった。自治省からは、病院の収縮かあるいは廃止を検討せよと指導があった。

こうした状況を打開するため、まず、全職員の意識調査に取り組みました。

- 1、病院の基本理念がない。
- 2、明確で具体的目標がない。
- 3、業務や経営の管理とその評価がない。
- 4、予算作成、事業計画が事務局主導で、医療職が関与していない。

こうした問題点が明らかとなり、その解決なくして病院の再生はないと、医師をはじめとして職員の意識改革に取り組みました。

現状

2010年度の決算状況は、総収益33億4,250万円。総費用32億1,99万4千円。純利益は1億3,152万6千円。

今年度より7対1看護の実施。

建設に向けての取組み

2010年4月 基本構想・基本計画の策定。

策定期間 2011年9月～2012年3月。

あり方検討委員会 10人・・・検討委員会議事録はHPで公開。

メンバー 香川大学経済学部教授、東京医科歯科大学川口先生、香川大学病院医師、公認会計士、県保健所長、地元医師会、連合自治会長、PTA会長、副市長等。

パブリックコメントの実施。

整備計画

旧坂出小学校跡地：15,700平方メートル。

建設費：42億5千万円で移転新築。

病床数：一般病棟200床程度。希望が多く50%の100床は個室

診療科目：14科（現在13科）

まとめ

DVDの視聴、質疑に丁寧に答えていただき、雲南市立病院の改築にあたって参考となった。

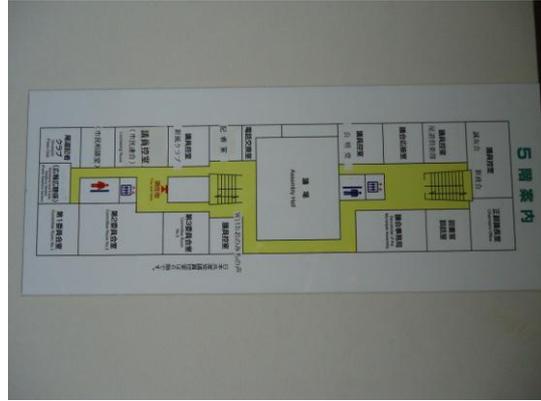


(坂出市立病院視察)

(その他参考写真)



(尾道市役所 議場)



(配置図)



(浦崎認定こども園前にて)



(鉄道博物館内部)



(マニアから寄贈の展示物)



(機関車の車輪)



(周辺整備計画)



(施設全景)



(場外展示の SL)



(場外展示の SL)